

この集会で毎年2月に“子育てセミナー”という集いがある、私はお招きを受けております。そこにはご夫婦で参加する方もおられるし、シングルマザーで参加する方もおられるし、お父さんだけで参加する方もおられます。要するに、子育て現役世代の方が、特に幼児が多いのですが、子供にどのように接していったらいいのか、毎年毎年やって、かれこれ10年くらいになるんですかね。

いつもはメッセージが終わった後、みんなでカレー食べて、カレーの後、質疑応答というか雑談というのがあるんです。今年もやりましたが、今年のカレーはありませんでした。オンラインでやったんですね。なぜか、まだ動画がアップされてないんですけども。

ある所で“うちでもやってよ”ということで、会を持ったことがあるのですが、その時、1人のお母さんが質問されたんです。ご夫婦で参加してたんですけど。

「主人は子供が好きで、積み木やブロックで子供に色んなものを作ってやるのはいいんだけど、途中から子供ほったらかしで、自分が積み木遊びに没頭して、自分1人が楽しんでいる。子供が怒って、主人が作った高い塔みたいなやつをバーンとやるんですけど、どう思いますか〜？」

ご本人がいたのでね、どう思いますかって、本人に聞いてみようと思って「そうなんですか？」

「高原さん、誤解ですよ。私は弟やったから、小さい時、積み木遊びは全部兄貴がやっちゃうんで、遠慮しながら小さな部品しかなかったけど、今はもう父親になったので、全部使えるからついつい楽しみで。大きな建物や塔を作って自分でも楽しんでいるけど、子供がバーンとやる時、キャッキヤ言って笑ってます。家内は女やから、男の子の気持ち分からないと思います。男の子って、出来上がっている物を一撃でバーンとふっ飛ばして壊す時、何とも言えない快感があります。高原さん、分かるでしょ。」アーメンというかね。分かるわ、それ。

子供が、特に幼児の時には、大人が作り上げるような素晴らしい物は作れない。大人が積み上げていくような積み木を作ることは出来ない。だけど、壊すのは子供でも出来る。

一撃でバーン潰した時、ある意味全能感というか、自分が持っている力を実感できるじゃないですか。大人が一生懸命作った物を一瞬に粉碎できる。その時何とも言えない“俺、力あるんや”みたいな。だから、「子供は喜んでキャッキヤ笑ってやってるんで、別に私に不満はないと思います。」

正直言って、ご主人が言ってる方が正しいと思う。正しいと思うけど、今なぜこんな話をしてるかという、私たちが時間を掛けて積み上げて来たビジョンや計画や夢を、一瞬にしてぶっ潰す 幼子のような精神状態の大人の人っていませんか？

自分なりに一生懸命積み上げて来たもの、一生懸命作って来たものを、関係ないのに横からブワ一割り込んで来て、否定的なことを言って、一撃でバーン潰して、本人はスッキリしているかもしれないけど、「え〜っ、そんな風に…」これ、よくありますよ。

ある所で1人の青年が「高原さん、本ってどうやって出すんですか？ 高原さん、何冊か本出していますが、出版はどうしたら出来るんですか？」「色んな方法あるけど、君、原稿はもう出来てるんか？」 そしたら「はい」と言ったんですね。これはすごいなと思った。

本気で本を出したいと思っている人は、既に原稿が出来上がってるんです。

そして、その原稿のデータをいつも持ち歩いています。チャンスがあった時、すぐにそれを取り出して、「ここに僕の原稿のデータが入ってます。見てください」と、いつでもすぐに編集者に渡せるように準備出来てるんです。

“本出したい出したい。原稿は今から…” これは夢食ってるバクみたいなもので、あまり実現しないですよ。だけど、“どうしてもこれを世の中に出したい。それを聞きたい” と思っている人は、既に準備出来てるんですね。チャンスが来た時に逃さないように、原稿を持ち歩いています。

紙じゃなくていい。データでいいですよ。「それを持ってるんか？」「ハイ。これです。」

これは、この若者は見込みがある。ちょっと読んでみたいなと思いましたね。

「出版は色んな方法があって、自費出版という方法は、自分でお金を出して本を作ってもらうんだけど、販売は本屋がしてくれる。それから、出版社から声がかかることもある。“大学の教科書書いて” ということを書いたこともある。初めは10ページくらいの小冊子で始めて、それを10冊くらいの合本にしたら そこそこの本になる。」

そしたら、ちょっと離れた所にご年配の方がおられたんですが、その人が低い声でボソッと「今どき活字離れやから、本なんか出しても売れへんで。今若者の活字離れ・読書離れはすごくて、新聞購読はどんどん減ってて、全部ネットで見るから、出版しても売れへんで。不良在庫いっぱい抱えて、後で大変やで。俺だって大変な目に遭ったからな。」

それをボソッと言った瞬間に、今まで目キラキラしていたその若者がシュ～、しおしおのぱあ、みたいな。ちょっと古いけど。元気失って。私も一緒になってシュ～。

“水を差す” ってあるじゃないですか。麺類ゆがく時、ぶわー沸騰しているやつに ちょっと水差したらシューンなる。“水を差す” とはよく言うたもんですよ。そんな感じ。

だけどその時、なんか弁護してあげたい気持ち、何とかこの若者の夢を手伝ってあげたいような気持ちがあって、「でもね、不良在庫のことホンマに心配やったら、Kindle (キンドル) という方法あるよ。」 Kindle とは電子図書です。今 電子図書だけで出版する方法もあります。

「Kindle は不良在庫を抱えることはないし、ああいう方法も・こういう方法も・そういう方法も…」 って言っているうちに、ボソッと行ったそのご年配の方が「おお！」とか言うて、すごく身を乗り出して聞いてくださったんですね。それを見ながら、“ここにも積み木崩しの名人いてはるわ。”

ある意味、説得力ありますよ。でも、夢破れた人は、もう1度やってみようという意欲がないので、他の人が積み木を積み上げていってるのを見た時、“親切心で言うてあげるんだけど” ということ、それをバーンと潰す場合が多いんじゃないかな。

アドバイスの中には、聞くべきアドバイスと、ただ単に潰して爽快感を覚えている人のアドバイスと両方あるんで、アドバイスは全部聞かなくてもいいと言ってるんじゃないですよ、聞くべきアドバイ

スもあります。あなたのことを親身に案じてくださっている人のアドバイスは聞くべきです。でも、親身に思ってくださいる人は世の中に一握りだと思います。だから、大切なプランは色んな人に一遍にオープンにするんじゃないかと、”これは！”という人にだけ打ち明ける、というのが良いんじゃないかなと思います。

ところで、特にそんなビジョンがなかったとしても、何か自分自身の人生という積み木を“意味がない・価値がない・何をやっても良くなならない・建設的なことは起こらない”、そういう価値観がこの世の価値観としてまかり通ってます。

いつの頃からか流行った言葉で“勝ち組と負け組”、やな言葉ですね。勝ち組と負け組 年収〇百万円以上は勝ち組、〇百万円以下は負け組みたいな。人の人生の勝ち負け、数で決めるなど。

ノルウェーの詩に「食物は金で買えるけど 食欲は金で買えない。  
薬は金で買えるけど 健康は金で買えない。  
ダブルベッドは金で買えるけど 安眠は金で買えない。  
別荘は金で買えるけど 居心地の良さは金で買えない。  
化粧品は金で買えるけど 内面の美しさは金で買えない。  
そして、友達は金で得ることが出来るけど 真の友情は金で買えない。」

いや、金は無いよりあった方がいい。そりゃそうでしょう。だけど、それで人生の勝ち負け、何と貧相な価値観と思いますが、そういう類の本がね、今書店に行ったら平積になってる。そういう 人間を押し潰す価値観、人間の尊厳を踏みつけにするような価値観に押し潰されず、それをはね返していくためにはどうしたらいいだろうか。

実はワタクシはですね、ゴールド免許なんです。うっはっはっはっ。5年間無事故・無違反。週に1回くらいしか乗れへんし。保険代金もちよっと安くなるしね。何よりも、5年に1回の免許更新の時の拘束時間がメチャクチャ短いですよ。ビデオ見て、新しい交通法規の解説の説明聞くだけでいいんですけどね。

東住吉警察署が今建て替えてるんです。山坂の方で何かやってるんですけど、そこで予約取って免許更新の講習を受けました。その先生がめっちゃ良かったんや。普通ね、“もうめんどくさい。はよ終われや。もう長い話、はよ終われや！”みたいな感じでしょ。めっちゃオモロイ。いっぱいメモしました。ネタの宝庫。すぐ脱線するんです。この脱線が面白い。学生時代、人気あった教師って 大体脱線せえへんかった？

その脱線がただの脱線じゃなくて、意味の含有量が多い脱線というか、聞いた後で印象に残るような脱線。“交通事故を減らすために、私たちがすぐ出来ること”で、その講師がひとと言われました。あるご婦人ドライバーが非常に上手な運転。上手な車庫入れ。運転技術すばらしい。安全運転で素晴らしいにもかかわらず、あることが起こると車擦ったり、事故になりかけたり、不安定になったり。それは、助手席にご主人が座る時です。

何が問題かという、そのご主人、奥さんがハンドル握っている間、のべつ幕なしに「スピード遅すぎ/ 早すぎ/ 車間距離長すぎ/ サイドミラー見た？/ バックは？/ 前向いて」

それをずーっと言われているうちに、ハンドル握っている自分自身が何だか無能力者・運転不適格者のように思えて来て、自信がなくなって来て、横やりのその言葉に振り回されて、普段1人だったら普通に出来ることすらも出来なくなってしまふ。

その講師が「皆さん、助手席というのは助け手の席です。助け手と書いて助手。助手席に座っている人は、ドライバーが助けを求めた時だけ発言してください。後は黙っててください。それが安全運転、事故を減らすために出来る手取り早いことです。なので、この会場にいる男性ドライバーの皆さん、奥様がハンドル握っている時はガタガタ言わないで、助手になってください。」

その時、小さな拍手がパチパチパチと。女性ドライバーから。ああ、言われてはんねんなあ。

これ、換気の休憩の時にちょっと言われた。ほなね、女性ドライバーが「それ言って来るの、コントロール出来ないじゃないですか。主人の口をどうやったら塞げるんですか？」

「口で言いなさい。『どの道運転するかは、私がハンドル握っているんだから私が決める。あなたはつべこべ言わないで』と言ったらいいじゃないですか。」

それ言えるような相手だったら苦労してませんと。

「ウチの主人は、口答えしたら『なんやと！』目すわる。怖い。何するか分からん。それが助手席におる場合、どうやって黙らせるんですか？」

「そうですねえ…、BGM 流したらいいです。車の中で音楽流して、ご主人がガタガタ言ってる時、メロディーを聞いてください。美しいメロディーにうっとり耳を傾けながら、首だけ“はい、はい”言ったらいいから。」 小さな拍手がパチパチパチ、また起こりまして。

私ね、メモしました。これって深くない？

他人（ひと）が自分に対してどんな態度を取るのかを、コントロールすることは出来ないんです。

でも、他人が自分にしてくることにに対して自分がどう応答するかは、自分で決めることが出来ます。

世の中は勝ち組・負け組とか、能力や出身大学や働いている企業の大きさによって、ガレージの数や庭の大きさや家の大きさによって、色んなことを言うかもしれませんね。

だけど、人間の価値の尊厳はそんなところには無いです。

“神なんか無い”という世界観に基いて人間をレッテル貼りしているこの価値観に対して、また、人間の心を積み木崩しのようにダメだ、ダメだ、ダメだと否定ばかりしているこの世界に対して、私たちは黙らせることは出来ない。

しかし、音楽のような美しいメッセージを聞き続けることによって、正気を保つことが出来るんです。美しい音楽のように心の深いところに届いて、心を癒してくれるようなメッセージって何ですか？

神の言葉です。

あなたをお造りになった創造主は、あなたをご自分のかたちに似せて造った。

あなたを愛しておられるのです。あなたには価値があります。

神があなたを愛しておられるという証拠はね、あなたが存在しているということです。

もし神様があなたのことを気に入らないと思っていたら、初めっから造ってません。

私たちだって、嫌なものを わざわざ身の周りに置かないんじゃないですか？

なぜ神はあなたをお造りになったんだろう？ あなたが生まれて来てくれたらどんなに良いだろうか。そして、あなたを通して神様がしたい崇高な使命があるのです。否定的な人生観・世界観のただ中で、人間として胸を張って、正気を保って生きて行くために、神の言葉を聞き続けていく必要があると思います。

今日は、今にも人生が押し潰されそう。にもかかわらず、美しい音楽のようなキリストの言葉を聞いて、人生がプラスに激変し、歴史を変えた男たちの決定的ターニングポイントの記事を一緒に見たいと思います。

ヨハネの福音書 20 章 19 節から。イエス・キリストが復活したその日の出来事の記録です。

19. その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」
20. こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。
21. イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。」
22. こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

週の初めの日の夕方とは日曜日のことです。週の初めの日と書いてあるから。

でも、ただの日曜日ではなかった。3 日前の金曜日にイエスが死刑にされてから、初めて迎える日曜日です。

イエスが死刑にされたあの金曜日、何があったか。

日没から“過越し（すぎこし）の祭り”というお祭りが始まります。

過越しの祭りの後の最初の日曜日は“初穂の祭り”というユダヤの祭り、祭日です。

つまり、ただの日曜日ではないんです。聖書が語る神の祝日。神の祭りの日。

普通ユダヤ人は、そのような祭日には家族だけで集まるんですね。

ところが、弟子たちは自分たちだけ集まって、しかも“今日は祝日。お祝いだ。大麦の復活の初穂の日だ！”と賑々しくではなく、ユダヤ人を恐れて戸に鍵をかけ、恐怖で肩を寄せ合うようにして、息を潜めて集まっていたんですね。彼らは恐れていました。

いったい誰を恐れてたんでしょうか？ ユダヤ人を恐れてと書いてある。

なぜユダヤ人を恐れていたんですか？

この日から 3 日前、イエス・キリストに十字架処刑という死刑判決を下したのがユダヤ人たちで、その十字架刑がなされたゴルゴダの丘は、彼らが集まっている所から目と鼻の先なんですよ。

目と鼻の先にある死刑の刑場で、自分たちの最愛の人で、最高に尊敬していた師匠が無残な殺され方をした。その殺した人たちがいる同じ町。殺された刑場が目と鼻の先。怖かったんですね。

なぜ逃げなかったのか？ 祭りの日だから移動出来ないんですよ。

彼らは恐らく内心ガタガタ震えながら、“次は俺たちが命を狙われるんじゃないか”という恐れもあったと思います。

と同時に、最愛の最高の師であるイエス・キリストを失った喪失感で、元気が出て来ない。  
大切な人を失ったら、本当に生きる張り合いがなくなりますね。  
イエス・キリストは、いつでも彼らのそばにそっと寄り添って、ピッタリの言葉で励ましてくださったのに、ご自身が死刑にされて死んでしまったという悲しみ。

プラス自己嫌悪です。イエスが十字架に掛けられるために捕らえられた時、弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げたのです。イエス・キリストと一緒にいる時には、「あなたとなら死までも覚悟しています」と言っていたのに、いざ軍隊が来てイエスを逮捕連行し、力づくで引っ張って行くその現場に居合わせた時、わが身可愛さで、イエスを1人残して、皆蜘蛛の子を散らすように逃げたんですよ。

皆さんも、今思い出したら自分が嫌になるような過去の汚点ないですか？  
あの時のあれ、思い出すたびに生きていく力が無くなって、“自分なんか消えてしまったらいい”というような気持ちにさせる、過去の取り返しのつかない残念な出来事・悲しい出来事って、1つや2つあるんじゃないですか？ 弟子たちはそれです。イエスを裏切ったという。

ですから、この日曜日は、一般のユダヤ家庭は“初穂の祭り”の祝日だけど、弟子たちの心象風景は人生で一番暗い日。生きていくのが一番辛い日。“自分なんかいなくなっちゃまえ”という否定的な思いに最も支配されているような日。

そのような時こそ、音楽のように魂にしみこんで来る神の言葉が必要なんですけど、今までそれを語ってくださったイエス・キリストは最早おられない。ただ彼らが出来ることは逃避。逃げることです。それで、戸を閉めて鍵をかけて、自分たちだけでガタガタ震えて。

ところが、19. **すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」**

彼らは今 平安がなくて苦しんでるんです。その彼らに「平安があなたがたにあるように。」  
今どんな心理状態かを十分に理解し、彼らの気持ちを汲み取っているイエス・キリストが、「あなた方が求めている平安があるように。その平安をもたらすために、わたしはあなた方の真ん中に来て立っています。」

20. **こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。**

**手と脇腹**、なぜ示されたんでしょう？ 手には、十字架に釘付けられた時の穴が開いてたんです。そして、十字架に磔にされ息を引き取った後、ローマ兵が槍で脇腹を突き刺したんですね。脇腹には、その傷跡というか穴が開いている。  
傷跡が残った手と脇腹を示した時、“弟子たちはおぞましさに悲鳴を上げた”とは書いてないでしょ。何と書いてありますか？ **弟子たちは主を見て喜んだ。** 生々しい傷跡を見て、なぜ喜ぶんでしょう？

それを考えるヒントを少し、昔見た番組で思い出したことがあったんです。  
私は今週の日曜日、大阪の和泉府中（いずみふちゅう）にある和泉キリスト集会で YouTube 配信をして来ました。今日のように、会場に誰もいてない所でお話するんです。

この和泉市に黒鳥山（くろとりやま）公園があって、その近所に住んでおられるカワモト ユキさんという人が、『探偵ナイトスクープ』という番組にある依頼をしたんですね。

『探偵ナイトスクープ』のディレクター、脚本を書いているのは百田尚樹（ひやくた なおき）さん。関西ではお化け番組でして、金曜日深夜にもかかわらずスゴイ視聴率を叩き出す番組なんです。

カワモトさんの依頼はこんな内容です。彼女は9年前に離婚し、2人の子供と1匹のワンちゃんで、心機一転人生やり直そうと、シングルマザーとして一生懸命生活して生きて来ました。

ところが3年半前に、娘が飲酒運転の車にはねられて亡くなったんですね。もう悲しくて悲しくて。3年半経っても悲しみが癒えない。今でもひょっこり「母さん、ただいま」って戻ってくるような気がする。

ところで、娘が犬の散歩で黒鳥山公園に行った時、まだ乾き切っていないコンクリートの舗装道路を「歩いちゃった」と言って笑っていたのを思い出した。その時見に行ったら、スニーカーの足跡と、犬の足跡が斑点みたいにポンポンと付いてて、「あちゃ～、やっちゃったねえ。アハハ」と笑ってたんですが、3年半経って跡がどんどん風化して来たんです。

「初めは深く刻まれていた足跡が段々摩耗して薄れて来て、しかも最近、黒鳥山公園で大規模改修工事が始まって、その道路が、いつコンクリートをめくって新しい道路にするか分からないという事態になりました。私にとって、娘の足跡のあるこの場所は特別な場所で、寂しくなるとここに来て、娘のことを考えています。このコンクリート保存のために、一肌脱いでください。」

すごい内容。探偵が沖縄出身のかすれ声の人。名前忘れた。

彼が和泉市役所に行って、「この足跡、何とか譲ってくれませんか?!」「でも、税金で造っている公共物を一般市民に与えるのは出来ないんですよ。」「そこを何とか!」

課長が出て来て会議開いてもらって。特例の例外ということで、近所の工務店の人が犬の足跡と娘のスニーカーの跡をくり抜いてね。それを抱いておられました。

ところで、真っ平らのコンクリートのすべすべした道で、犬の足跡やスニーカーの靴跡は傷もんじゃありませんか。目障りでしょ。他の所は全部無傷でフラットで気持ちがいいのに、そこだけ本来予定がなかった物が付いてて、ここだけ傷物・穴開いてる・失敗作。目障りです。他の人にとっては。

しかしお母さんにとっては、その靴跡は娘がかつてこの地面を歩いたのだという証拠なんです。他の人には鬱陶しい物でも、お母さんには、娘がこの地面・この場所を本当に歩いたのだということを思い起こさせてくれる思い出の品・傷跡ですよ。

なぜ弟子たちは無傷のイエス・キリストではなくて、手と脇腹に傷跡があるイエス・キリスト、その傷跡を見て喜んだのか？ その傷は、かつて自分の罪のために、身代わりとなって十字架に掛かってくださったキリストご自身の贖いのシンボルだからです。

キリストはなぜ傷を受けたのでしょうか？ 誰の罪で傷を受けたのでしょうか？ 誰の罪過で呪われたのでしょうか？ 紛れもなく、主よ、この私です。私があなたに対して罪人です。罪人の私を庇うために、あなたは十字架に掛かって傷を受けてくださった。あの傷こそは、私の贖いのためのあなたの愛のしるしです。

河野進（この すすむ/1904-1990）という牧師、もう亡くなりましたが、たくさん詩集を出しています。その中に、「主イエス・キリストが 見限る罪人などいない。

主イエス・キリストが お嫌いになる罪人などいない。

主イエス・キリストが 関心を持たない罪人などいない。

主イエス・キリストが 愛さない罪人などいない。

主イエス・キリストが 赦すことができない罪は一つもない。」

なぜ、イエス・キリストが赦すことが出来ない罪は一つもないのでしょうか？

どんな罪も、イエス・キリストがご自分の身に背負って、十字架の上で完全償却してくださったからです。キリストは、十字架について語ってくださった良い教えを教えるだけの教師じゃない。

紛れもなく、私の救い主として十字架に掛かってくださったことのしるし、それが傷跡です。

十字架に掛かった方以外に、この傷を持っている者はいないからです。

第2番目。なぜ、この傷跡を見て喜んだのか？ 今生きている方が傷跡を持っているということ、傷があるということは、1度死んだということですよ。

1度死んだ方が、死んだ証しを持ったまま今生きているということは、死を打ち破って復活なさったことの確認の証拠となるからです。

ある方がこんなことを仰ってました。

「人は死を恐れる。なぜ死を恐れるんだろう。それを考えるために幽霊を考えよう。」

一般的に幽霊怖い。お化け怖い。なぜ幽霊が怖いのか？ 幽霊というのは得体が知れないから。

もうちょっと分かりやすく言うと、幽霊って、日頃何してるのかが見えないからです。

日頃何してるか全然分からへんに、突然現れて「うらめしや〜」とか言うから怖いんですね。

でも、もし幽霊が日頃営業に回っているとか、パソコン打ってる・料理作ってる・洗濯してる・掃除してるとか。俺らと変わらへん。ほな、出て来たらね“お前もな！”みたいな感じで。

得体が知れないから恐ろしいんだと。

なぜ人は死を恐れるのか？ 死というものの得体が知れないから。

死んだらどうなるのか。どこに行くのか。死後の世界が分かんない。

みんな死んだっきりで、もう1度復活して“死後の世界はこうだった”と説明出来る人はいない。

仮死状態で蘇生した人はいるけど、完全に死に切って、3日目によみがえった人はいない。

だから、得体が知れないから死が怖い。

イエスは死んで、死後の世界を経験して、そして復活して、こう仰ったんです。

「死後の世界、怖いぞ〜。」いいえ。「**平安があなたがたにあるように。**」

平安のメッセージを携えて復活したんですよ。死はもう恐れる必要がない。

死が恐ろしいのは死後に裁きが待っている時です。しかし、人が死後に受けなければならない裁きはキリストが生きながらにして全て受けてくださったので、最早死を恐れる理由がなくなった。

イエスの笑顔を見た時、弟子たちは喜んだんですね。

第3番目。なぜ、弟子たちは主を見て喜んだのか？ この傷こそは、メシアであることの証拠だから。本物のメシアは死後復活する。復活した時に傷跡を持っている。その傷跡を見て、ある者は嘆き、ある者は喜ぶことが旧約聖書の預言書の中に出て来るんです。

今まで「私がメシアだ！」と言った人たちはいますよ。韓国人で文鮮明（ぶん せんめい/1920-2012）おったじゃないですか。死んでそれっきりやん。偽メシアですよ。麻原彰晃（あさはら しょうこう/1955-2018）もシャブタイ・ツヴィ（1626-1676）も。言っても分からへんと思うけど。色んな人が「我こそはメシアだ・キリストだ」と言うけど、死んでしまったらそれっきりじゃないですか。

旧約聖書の預言によるならば、メシアは死んだ後、傷を持って復活しなければならない。傷跡を持つそのメシアを見た時、胸を叩きながら嘆き悲しむ人たちも出て来る。それは、地上再臨の時のキリストのことですね。

いずれにせよ、傷跡を持ってよみがえったイエス・キリストを見た時、弟子たちは“聖書預言が語っている通りのお方、預言されていたメシアはこの方である。死んでよみがえったのはイエス・キリストご自身だけである。”復活という現実をイエスを通して見せられた時、弟子たちは“待望していたメシアは、紛れもなくこの方だったんだ”ということが分かって喜んだんですね。

3日前に、彼らはキリストを裏切ってるんですよ。裏切って大迷惑をかけた方の前でニコニコ。何で笑えるん？ こいつら鈍感か？ いや、そうじゃない。責められてたんですよ。責められてたんですけどね、よみがえったイエス・キリストを見た時、彼の笑顔の中にほんのわずかも陰りが無い。イエスを裏切ったというその罪も、十字架で全部永久処分されてるんだ！

## 21. 父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わします。

弟子たちは、遣わされて外へ出て行くことの正反対をやってたんです。部屋の中で、戸を閉めて鍵をかけて閉じ籠って。

“俺たちはどこにも行けない。人目に触れるような所には行かない。見つかったらヤバイ。できるだけ人目を避けて、こっそり郷里のガリラヤにでも帰ろう”と思っていたかもしれません。

しかしイエスは、「いやいや、あなた方は出て行って、父がわたしを遣わしたように、これからは、わたしの代わりに人々に宣べ伝えよ。全ての人の罪は永久処分され、わたしの死からの復活によって死も滅ぼされた。この喜ばしいニュースを携えて、全世界に出て行って福音を宣べ伝えよ。」

弟子たちはあんなに臆病だったのに、イエス・キリストの復活、特にペンテコステの日に聖霊が下った後、勇気みなぎる人物に変えられました。そして、反対者たちにこう言って宣言したんです。「私たちは自分が見たこと、聞いたことを黙っていることは出来ません。この方以外に救いはありません。死んでよみがえったイエス・キリストこそ真のメシア。私たちの罪と死からの救い主です。」

この福音がやがて世界中に広まり、日本にも伝わりました。私はイエス・キリストの復活を、弟子たちのように自分の目で見たことはありません。

